

令和3年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月14日実施)	総合評価 (3月23日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①生徒の意欲を高める新たな教育課程を編成し、確かな学力及び農業に関する専門性の向上を図る。</p> <p>②生徒の主体的な行動を促し、生徒会活動や農業クラブの活動を充実させる。</p>	<p>①新しく編成された教育課程を運用・展開できるように、共通教科及び農業科内で授業研究を進める。</p> <p>②農業クラブの活動を軸に、専門知識の育成を図る。</p>	<p>①研究授業を活用し、組織的な授業改善を行う。また、教育課程説明会や教科研究会での新しい知見を参考にして、教科会や学科会議で情報共有を行う。</p> <p>②コロナ禍での状況を考慮した農業クラブ活動を行い、専門性を活かし、各種発表会や地域貢献活動への参加を模索する。</p>	<p>①組織的な授業改善のための公開研究授業が実施でき、研究協議により成果と課題等が挙げられたか。また、教科会や学科会議が行えたか。</p> <p>②令和2年度の活動実績を上回ることができたか。また、新型コロナウイルス感染症対策を講じた工夫ある活動ができたか。</p>	<p>①必要な情報を適時収集したうえで、各教科・学科等の意思疎通を十分に図り、生徒の基礎学力の充実と専門性の向上に資する授業改善を実施することができた。</p> <p>②昨年の活動実績を上回ることができなかった。その中で生徒会本部の活動では、赤い羽根の募金活動を校内で実施した。また、農業クラブ全国大会(兵庫大会)の農業鑑定競技会に参加することができた。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症の影響による先行きの不透明さ、次年度入学生からの1人1台端末の導入を踏まえ、オンライン授業をはじめとするICT活用を推進する必要がある。</p> <p>②地域活動団体の行事が実施されない状況にあり、土日の部活動も休止状態が長く続いた点が、達成を阻んだ。</p>	<p>①一人1台の端末の導入を検討されていることは良いと思う。その反面生徒の家庭環境においてWi-Fiが使えるかどうかの確認が必要と思われる。コロナ禍中、教育課程や学習指導において運用や活動が思うようにいかず苦労されたと察している。一人1台の端末が導入されるとのことで、ICTを活用した効果的な取り組みを期待する。</p> <p>②活動は、小さなこと・些細なことでも良いので、地域社会に向け生徒自身で考え行動してもらいたい。企業や大学は、些細なことでも良いので経験値から導き出される本人の考え方や対応などの思考力や行動力を求めています。</p>	<p>①ICT利活用の環境整備は進んできた。しかし、思考・判断力向上や課題解決力を充実させるための手段であることを自覚して、活用の推進をしていきたい。</p> <p>②生徒会は未達成だった部分を見直し、行事を通しての主体的態度の育成を目指すことに努める。農業クラブは工夫を凝らしながら徐々に活動を進められている。三大目標の一つであるリーダー性を今年度以上に発揮してもらいたい。</p>	<p>①所掌グループにスキルアップのための研修や研究授業の実施計画を立案してもらい、実践力を高める。</p> <p>②課題解決能力の育成に効果のあるプロジェクト学習法を卒業までの3年間で系統的に行う。また、専門研究部で必ず行い、校内で表現する場を生徒に用意する。</p>
	生徒指導・ 支援	<p>①基本的な生活習慣を確立・定着させるとともに、規範意識の醸成を図り、部活動を活性化させ、豊かな人間性、社会性を育む。</p> <p>②インクルーシブ教育の視点にたった生徒一人ひとりの個性や状況に応じた生徒指導、支援体制の充実を図る。</p>	<p>①挨拶の励行や日常の生活習慣の指導をとおして基本的な生活習慣の確立を目指す。</p> <p>②インクルーシブ教育の視点にたった生徒一人ひとりの個性や状況に応じた生徒指導、支援体制の充実を図る。</p>	<p>①朝学習の内容を充実させ、生徒が主体的に取り組み1日を積極的にスタートさせることで、基本的な生活習慣の確立につなげる。</p> <p>②生徒相談会、学校生活アンケートを実施し、生徒の現状を把握したり、えびな支援学校のセンター的機能を活用したりする等、個々の教育相談の機会を充実させる。</p>	<p>①遅刻等の状況が改善したか。また、朝学習の目的や意義が周知できたか。</p> <p>②生徒相談会、生徒アンケート及び教育相談の実施状況がどうだったか。えびな支援学校との連携活動の実施状況はどうだったか。</p>	<p>①コロナ禍による時差登校の関係で今年度朝学習は実施できなかったが、各学年の指導で遅刻数は増加していない。</p> <p>②悩みを抱える生徒の相談に随時応じられる体制づくりを各学年やSCの方と連携しながら確立することができた。生徒が相談できる先生方にも声掛けをして協力してもらった。</p> <p>学校生活アンケートを学期末に2度実施し、必要のある生徒には随時面談を行い、支援を行うことができた</p>	<p>①挨拶を励行することで、基本的な生活習慣が身に付くよう指導を続けたい。</p> <p>正しい服装で授業に臨むなどの指導を全職員で行えるよう意識の統一を図る必要がある。</p> <p>②農業科の授業を中心に、えびな支援学校との連携活動は実施したが、教育相談の機能を果たすことができなかった。</p>	<p>①服装指導は押し付けではなく、生徒が納得できるような対話を望む。生活指導や生徒からの相談事で苦労が見られるようなので、外部の協力等必要なら連絡してほしい。挨拶は社会生活をしていく上で、重要な習慣である。引き続き指導をお願いする。</p> <p>②悩みをかかえる生徒の相談に随時応じられる体制が確立できたことは、今後の生徒指導、支援体制を充実させていく上で大変重要なことだと思う。</p>	<p>①委員が指摘された通り、服装や挨拶指導は、生活習慣指導とともに社会に出てから重要なものなので、今後とも継続しながら方法を工夫して指導を行っていく。</p> <p>②カウンセリングを活用しながら、教育相談とともに生徒支援をデュアルで行うことが生徒の立場を理解して必要なことだと認識できる職員が増加した。</p> <p>学校生活アンケートの実施から生徒が抱く学校生活に関する不安や不満が把握できた。</p>	<p>①挨拶の励行をするためには教員側が模範を示し、全職員が積極的に校外で挨拶を行っていく必要がある。</p> <p>②教育相談コーディネーターの活躍できる体制を強化していく。</p> <p>学校生活アンケートの実施から結果集約までをスムーズに行うよう取り組んでいく。</p>

3	進路指導・支援	<p>①体験的学習を重視し、勤労観・職業観を育成し、進路指導の充実を図る。</p> <p>②社会的自立に向けた教育の充実に取り組む。</p>	<p>①コロナ禍での状況の下、勤労観・職業観を育成するため、従来の方策に感染症防止策を盛り込み活動の継続を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりの進路実現に向けて学年の状況に応じた進路全体説明会・進路別ガイダンス、進路別説明会を計画的に行う。</p>	<p>①コンソーシアムサポーターの協力を得ながら、協力企業へのアプローチや生徒の事前指導を徹底し、コロナ禍でも体験できる体制を構築する。</p> <p>②生徒一人ひとりの進路希望の実現に向けて、説明会やガイダンス等の充実を図るとともに、3学年団とキャリア支援グループが一致協力し、面談等を通じて生徒理解に努める。</p>	<p>①令和2年度の活動実績を上回ることができたか。また、コロナウイルス感染症対策を講じた工夫ある活動ができたか。</p> <p>②個別に丁寧な進路指導を行い、生徒の希望どおりの進路実現が図れたか。進路別説明会が計画どおり実施できたか。</p>	<p>①コンソーシアムサポーターの協力を得ながらコロナ禍であったが感染対策を事前指導においても徹底した結果4名が参加でき昨年度実績より上回ることができた。</p> <p>②進路別説明会は計画どおり実施できた。全体的には生徒の希望どおりの進路実現ができた。</p>	<p>①コロナ禍で体験できる日数に限定があり、単位認定まで至らなかった。参加できる人数を増やすことと単位認定ができるようサポーターの協力を得ながら実施していきたい。</p> <p>②就職はコロナ禍で厳しい状況が続いたが希望者全員が内定にこぎつけた。第1希望での内定が昨年度よりやや減少したためより一層きめ細やかな指導が必要だと感じた。</p>	<p>①進路に必要な資格や免許が取得できる授業の推進に力を入れるよう考えてほしい。生徒の特性を発見し、伸ばし進路につなげることは大変技術のいることと思う。生徒個々の適性に合った進路指導を引き続きお願いする。</p> <p>②コロナ禍で厳しい状況が続いた中、就職内定が減少したことは致し方ない。計画的に指導された成果として、厳しい社会情勢の中においても希望者全員が内定をとれたことはよかった。</p>	<p>①担当者の鋭意努力により目標達成できた点は、職業観の育成に成果があったと考える。また、農業体験では、13名の生徒が管理技術の研鑽に取り組むなど積極性が身に付いた。</p> <p>②委員から評価をいただいた点は、意義のある説明会が実施できたことである。また、個別指導により適性を見ながらの進路先決定は、学年とグループとの協力がしっかりできた成果である。</p>	<p>①参加生徒の要望に沿った体験先の確保や事前・事後指導の徹底、事務処理の省力化を行い、参加者数を従前に戻していく。</p> <p>②全体指導と個別指導を上手に組み合わせ、生徒の進路実現を100%できるよう、引き続き学校全体で取り組む。</p>
4	地域等との協働	<p>①学校の教育力（農業）を活かし、地域との協働・連携を一層強化する。</p> <p>②えびな支援学校との連携・交流をとおして、インクルーシブ教育の推進を図り、いのちや人権を尊重する精神を育む。</p>	<p>①農業教育を活かした本校の活動を地域に発信し、コロナウイルス感染症防止策を講じながら協働活動を推進する。</p> <p>②えびな支援学校との交流を様々な場面でを行い、インクルーシブ教育への理解を深める。</p>	<p>①農業科各学科の学習活動や農業クラブ活動を通じて、地域との連携・協働活動を行う。</p> <p>②えびな支援学校との連携委員会が主導し、農業クラブ・生徒会本部や生徒会部活動が協力し、活動を展開する。</p>	<p>①令和2年度の活動実績を上回ることができたか。また、コロナ対策を講じた工夫ある活動ができたか。</p> <p>②令和2年度の活動実績を上回ることができたか。また、参加した生徒の意識が変容したか。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症まん延防止措置により、地域活動団体等の行事や農業クラブ専門研究部の活動が減少した。農業クラブ本部の活動では、NPO法人フードバンク横浜への寄付が昨年比2倍の実績となった。</p> <p>②えびな支援学校と本校の農業クラブや生徒会、選択科目を通して積極的に交流ができ、インクルーシブ教育の推進を図ることができた。</p>	<p>①対面による活動が自粛している中であるが、寄付等をもっと活用することで活発な活動ができ、現状を踏まえ必要性を感じた。</p> <p>②今後も継続的な交流が必要である。また、一部の教職員や生徒が担当するのではなく、全職員、全生徒の意識の向上が必要である。</p>	<p>①対面による活動が思うようにできない中で少しでもできるようにしていただきたい。コロナ収束後は以前のように地域の交流体験をお願いしたい。フードバンク等への寄付は新聞で知っている。農と食のネットワークづくりが発展するように期待する。</p> <p>②インクルーシブ教育の推進が図られたことで、たいへんうれしく思う。神奈川県「ともに生きる」社会の実現に向け、今後も連携・協力できればと思う。</p>	<p>①昨年よりできることを少しずつ増やし、地域とともに生徒たちも成長することができた。教育資源と施設設備を活用して、地域になくてはならない学校として存在意義を高めたい。</p> <p>②目標が達成できた点は、生徒たちの取り組みのおかげである。この機会にインクルーシブ教育の理解促進をさらに進めたい。</p>	<p>①地域から期待の大きい分野である。地域からの要望を踏まえつつ、生徒が主体的に行動できるよう指導していく。</p> <p>②交流意義の再確認や職員同士の協議によって、一部の担当職員の負担感を減少させることを検討していく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①学校施設環境を整備し、防災・防犯意識を高め安全教育を充実させる。</p> <p>②事故・不祥事防止の徹底を図り、信頼される学校づくりを推進する。</p>	<p>①学校施設環境（職場環境及び学習環境）の整備と安全教育の充実を図る。</p> <p>②事故・不祥事防止の徹底を図る。</p>	<p>①衛生委員会及び農場会議・学校保健委員会を通じての提言や意見から、安心して快適な職場環境と学習環境を整備する。そして、実験や実習での事故をゼロにするよう取り組む。</p> <p>②不祥事防止研修の実施及びWebやメールを利用して防止意識の醸成を行う。</p>	<p>①校舎や農場においての安全・安心な学習環境の整備が行えたか。また、実験や実習での事故防止ができたか。</p> <p>②不祥事防止研修会の実施状況及び検証時の職員アンケートからの理解度が70%を超えたか。</p>	<p>①衛生委員会での提言を受け、女性職員の更衣室及び休養室の整備が完了した。実験・実習での事故はなかった。</p> <p>②検証結果として、理解度は100%に達した。</p>	<p>①学校保健委員会の在り方について検討をする時期にきている。授業に際して安全確保をしっかりと行っていくことを継続していきたい。</p> <p>②県職員の不祥事が絶えない中、本校で引き起こさないよう取り組みを続けていく。</p>	<p>①老朽化に伴う安全管理に気を配っている。実験・実習での事故防止については、学生は入れ替わり、先生方の交代もあるので毎年、関係者でリスクを確認共有していくことが重要だと思う。</p> <p>②県職員の大人としての自覚を持っていただきたいと思う。</p>	<p>①個人の意識と組織的な意識を統合し、設置委員会での提言等を参考にして、安全管理体制を構築することで、職場環境と学習環境の整備をすることができた。</p> <p>②研修を通して常にセルフチェックを心がけ、常に教育公務員としての高い倫理観に基づいて、業務にあたっていく職員が増加した。</p>	<p>①本校で定める農作業器具等の取扱い基準を遵守し、事故を未然に防止する体制を年度初めに確認する。</p> <p>②意識の醸成のため、定期的な声掛けと研修を実践していく。</p>